



# 栗 山



学 校 だ よ り  
学校運営協議会だより

校訓：誠実・自律・調和

令和4年4月12日

第1号

八王子市立浅川中学校



# 主体的な行動は『あいさつ』から

～自分から行動できる、主体的な生徒の育成のために～

校長 市場 陽一郎

この時を待っていたかのような満開の高尾の桜に見守られ、浅川中学校の新たな年度が始まりました。そして、本校は新入生110名を迎え、357名の生徒、45名の教職員が落ち着いた中、穏やかに新年度のスタートを切りました。

今の浅川中は、生徒と教職員が保護者、地域の方々に支えていただきながら、穏やかに学び合える学校となっています。入学式では新入生の緊張した表情とは対照的に、最上級生となった三年生は成長し自律した姿を見せ、誇れる上級生となる自覚と決意を感じさせてくれました。マスク越しに聞こえる上級生の歓迎の歌声に新入生はきっと大きな刺激を受け、その姿から素直に学び、成長して行くものと信じています。その始業式や入学式の場で生徒の代表は、仲間との優しい学校づくりのために「優しさを忘れずに、誰かのために頑張れる人間になりたい」と力強く語り、全校生徒がその言葉を真剣に受け止めています。『共に学ぶ、もっと優しい学校』を目指し、学校全体が一つの方向に向かって進んでいることを強く感じているところです。

本校が目指す『人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒の育成』のためには、ここで満足することなく、進化を続けなければなりません。私たち教職員は、全ての生徒が人と人との関わりを大切にしてくるべく伸びやかに成長することを願い、仲間と共に学び合う授業づくりと優しい学級づくりに取り組みます。さらに成長するために、最も力を入れて取り組むことは、昨年度と同様に『自分から行動できる、主体的な生徒の育成』です。学び合う授業や学校行事、学級活動、委員会、部活動などあらゆる場面で「主体性」を意識して教育活動を行います。そのためにまず、シンプルではありますが『良いあいさつをする』を具体的な行動目標とします。

私は、自分からあいさつできる前向きな気持ちが育ってこそ、主体的に行動できる人間になっていくのだと考えています。なぜなら私たちは一つのあいさつの言葉を発するために「ある種のエネルギー」や「小さな勇気」が必要な時があることを知っているからです。明るく前向きなあいさつができる力は、必ず生徒たちが自ら行動しようとする力の源になっていきます。同時に相手を尊重する優しさと自然に学び合う姿勢につながると信じています。

主体性を求めるとき、もう一つ意識しなければならないことがあります。「自律＝責任ある行

動」が必要となるということです。本校の特色でもあるノーチャイム制を進化させる『ノーチャイム始業』に学校全体で取り組み、生徒が成長し続ける、進化する学校を目指します。

今年度も浅川の子供たちが優しく、真っ直ぐ伸びて行けるように保護者、地域の皆様の温かい見守りとご支援をよろしくお願いいたします。



第76回入学式での3年生歓迎の歌



# 令和4年度 浅川中学校学校経営計画

## はじめに

目指す生徒像は「人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒」である。本校の校訓にもある自律と調和を意識し、人への優しさを大切に、関わって学び成長する生徒を理想としたい。より良い人間関係の構築を行い、生徒が主体的に活動する姿が見える学校づくりを行う。教育理念、『けじめ（自律）、学習（学び合い）、仲間（人権意識）、感動（気づき）』を忘れることなく、この「感動」を学校全体で感じ、誇りとし、更なる成長、改善への力としていく。

## ★校訓★ 『誠実』・『自律』・『調和』（平成29年度に策定）

### 1 教育目標

自ら、確かな学力、豊かな人間性や社会性、たくましい体を主体的・創造的に育み、その能力等を、自己実現及び社会の発展のために発揮できる生徒を育成する。

◎ 自ら学び考え行動する生徒 ・ ・ ・ ・ ・ 【今年度の重点】

- 豊かな心を持ち、思いやりのある生徒
- 心身ともに健康で、たくましく生きる生徒

### 2 目指す生徒像

『人と人との関わりから学び合い、社会に貢献できる生徒』

- ◎自律と調和を意識し、人への優しさを大切にする生徒
- ◎関わって学び、成長する生徒
- ◎常に当事者意識を持ち、自分事としてものごとを考える生徒

### 3 目指す学校像

『共に学ぶ、もっと優しい学校』地域運営学校として保護者、地域に信頼される学校

## 学校経営の基本方針—経営のスローガンおよび指導方針—

愛情・誠実・使命感をもって行動し、<sup>「学校経営のスローガン」</sup>『共に学ぶ、もっと優しい学校』を目指す。

人と人とのつながりを大切に、認め合う学級、学年経営を行う。具体的な方策として「学び合い、聴き合う授業づくり」を進める。生徒一人一人の学力を保障することはもちろんであるが、互いに認め合い高め合うという人権尊重の精神を毎日の授業を通して浸透させることにより、いじめ、不登校はもとより生活指導上の問題発生を予防する。

## 今年度の指導の重点

『自律した主体的な生徒の育成と、優しく学び合う授業づくり』

### 1. 自律した主体的に行動できる生徒の育成のために

今年度は「あいさつ」を主体的な行動の第一歩と捉え、「あいさつ」の励行を生徒の主体性を伸ばす「キーワード」として強く意識して取り組む。

### ◎自律のための自己指導能力育成と温かい人間関係

- ・「みそあじは運動」を優しい行為として捉え、全教職員が共通認識を持ち指導、支援する。  
「み」自律を促す服装指導・・・指定セーター、ポロシャツ導入による衣替え廃止。  
「そ」そうじは誰かのために頑張る優しい行動。4人班で責任ある行動を。  
「あ」あいさつは相手を認め、思いを伝える優しい、主体的で前向きな自分をつくる行為。  
より良い人間関係の構築につなげ、いじめや不登校の防止に。
- 「じ」時間は皆のもの。時間を守るのは周囲への優しい行為。ノーチャイム始業の徹底。
- 「は」話を聴くことも相手を認め、思いを受け止める優しい行為。聴き合う関係づくりを。
- ・生徒理解の上に立った、生徒の人格を大切にする温かい指導、支援を徹底する。
- ・教師が伴走者やファシリテーターとして生徒の自己決定を促し指導、支援を行う。
- ・毎週金曜日6校時を「生徒理解の時間」と設定し、いじめ対策、不登校対策への取り組みを全教職員で行う。
- ・自己肯定感を高め、前向きな学校生活を送らせるために、『もっと優しく、浅川中』を合言葉に、授業、学校行事、生徒会活動、委員会活動や部活動などあらゆる場面で生徒に達成感をもたせる。特に、生徒会活動の活性化を学校全体の主体的な活動につなげていく。

◎特別支援校内委員会で生徒への支援の方向性を共有確認し、丁寧に指導支援する  
くりやま学級との連携で支援の必要な生徒を支えていく。

## 2. 学び合い、高め合う魅力ある授業づくり 《「学びの共同体」の理念を基に》

- ◎ グループ学習を柔軟に取り入れ、協働的な魅力ある授業を展開する。
  - ・教師の授業力を向上させるため、年3回の学び合う授業づくり授業研究協議会を持つ。
  - ・積極的に放課後学習、補習等を行い、学力に不安をもつ生徒を支援し学習意欲を高める。
- ◎ 学び合う授業づくり、聴き合う関係づくり（生活4人班、コの字座席）により、生徒の居場所があるクラスをつくり、関わる力を身につけさせ不登校やいじめを防止する。
- ◎ OJT推進委員会が中心となり、教職員同士の学び合いの風土を創る。

## 3. 地域運営学校として『地域から信頼される学校』に＜社会に貢献する意識の育成＞

### ◎学区に高尾山を持つ学校として、日本遺産高尾山学習に取り組む

- ・日本遺産高尾山学習に取り組み、郷土を知り、考え、故郷に愛着と誇りをもたせる。
- ・SDGsの考え方を学び、自分事として考え、行動できる生徒を育てる。

### ◎学校運営協議会、青少年対策浅川地区委員会との連携

- ・生徒に積極的にPTA・地域行事、ボランティア活動への参加を促す。その中で地域で活躍し貢献する場や、地域の方々との関わりの中から学ぶ機会を増やす。
- ・より地域から信頼される学校を目指し、教職員のPTA・地域行事への積極的参加推進。

## 4. GIGA スクール構想、ICT 機器活用に挑戦

### ◎一人一台 PC の積極的活用

- ・教科の授業や様々な教育活動の中でPC活用を実践する。
- ・補充的学習や個別支援でのPC活用を実践する。
- ・緊急事態や不登校生徒対応でのPC活用を試行する。

### ◎ホームページ、デジタルサイネージの充実と発信、校務の効率化

- ・デジタルサイネージコーナーの充実による情報発信を行い、生徒の意欲を高める。
- ・学校ホームページにより、地域へ学校情報を発信し開かれた学校にする。

## 5. 働き方改革を意識した教育活動・部活動の充実・その他

- ・定時退勤日を毎月設定。職員会議日を基本とする。（特例は管理職に相談）
- ・全ての部活動に複数顧問を配置し、生徒の活動の保障と教員の負担の軽減を図る。
- ・男女混合名簿導入を一年前倒して実施する。